

2022年5月

学生認識／行動調査2021

結果報告

学生支援センター

目次

調査の概要.....	2
回答率.....	2
1. 入学動機.....	3
2. 自己肯定感.....	5
3. 他学生および教職員との関係.....	7
4. 施設等満足度.....	9
5. 施設等への要望 [自由記述].....	13
6. 学修状況.....	16
7. 授業満足度.....	19
8. 建学の精神の理解とDP達成度.....	22
9. 生活・心身の悩み・経済状況など.....	29
10. 本学への意見等 [自由記述].....	45

調査の概要

調査期間：2022年2月16日（水）～3月31日（木）

対象者：学部の1～4年生（休学者を除く）

調査方法：Google Formsを利用した（stアカウントからの回答に限定）。

学籍番号取得式による任意回答とした。

設問数：39問（選択式36問・自由記述3問）

回答率

<学科別回答者数・回答率>

学科	日本文学科	中国文学科	英米文学科	教育学科	書道学科	歴史文化学科	社会経済学科	現代経済学科	中国語学科	英語学科	日本語学科
対象者数	635	241	499	487	233	383	813	635	273	870	234
回答者数	150	43	83	83	47	87	99	75	36	180	46
回答率	23.6%	17.8%	16.6%	17.0%	20.2%	22.7%	12.2%	11.8%	13.2%	20.7%	19.7%
学科	法律学科	政治学科	国際関係学科	国際文化学科	経営学科	環境創造学科	スポーツ科学科	健康科学科	看護学科	社会学科	全体
対象者数	905	622	411	392	1,440	15	509	324	390	764	11,075
回答者数	134	99	56	67	185	0	59	61	73	159	1,822
回答率	14.8%	15.9%	13.6%	17.1%	12.8%	0.0%	11.6%	18.8%	18.7%	20.8%	16.5%

<学年別回答者数・回答率>

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	全体
対象者数	2,849	2,815	2,585	2,826	11,075
回答者数	675	521	396	230	1,822
回答率	23.7%	18.5%	15.3%	8.1%	16.5%

1. 入学動機

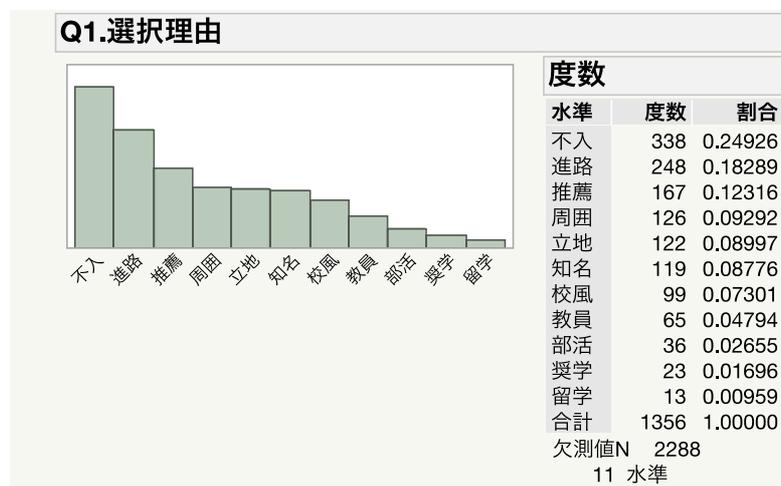
このセクションでは、Q1（入学動機）に関する部分について結果を報告する。

【入学動機】

Q1 1年生(2021年度入学生)のみ回答してください。本学に入学した理由は何ですか。(主なものを2つまで)

- ①校風 [校風]
- ②指導を受けたい教員がいた [教員]
- ③将来の希望進路に必要な勉強ができる [進路]
- ④知名度・注目度の高さ [知名]
- ⑤立地条件 [立地]
- ⑥親や先生など周囲のすすめ [周囲]
- ⑦推薦入試制度があった [推薦]
- ⑧希望の部活動等に入るため [部活]
- ⑨奨学金制度が充実している [奨学]
- ⑩留学制度が充実している [留学]
- ⑪希望した大学に入れなかった [不入]

<全学>



これはひとり2つまで選択した合計の頻度である。回答した1年生は675名であったので、その回答者の中でどのくらいの割合が各理由をあげたかは以下の通りとなる。約50%が本学を選択した理由として「不入」すなわち「希望した大学に入れなかった」をあげている。

不入	進路	推薦	周囲	立地	知名	校風	教員	部活	奨学	留学
338	248	167	126	122	119	99	65	36	23	13
50.1%	36.7%	24.7%	18.7%	18.1%	17.6%	14.7%	9.6%	5.3%	3.4%	1.9%

では2つ選択した時、どの2つの組み合わせが多かったのだろうか。2つの理由の組み合わせの頻度の一覧は以下の通りである。

選択理由1と選択理由2の組み合わせの頻度											
度数	不入	推薦	周囲	立地	進路	知名	部活	奨学	教員	留学	合計
進路	47	34	22	15	0	19	9	5	0	0	151
校風	8	10	5	18	27	8	1	0	8	1	86
知名	38	13	11	10	0	0	2	1	0	0	75
立地	34	9	11	0	0	0	0	2	0	1	57
周囲	22	20	0	0	0	0	3	1	0	1	47
教員	4	8	5	3	18	3	2	1	0	0	44
推薦	6	0	0	0	0	0	8	1	0	2	17
奨学	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	9
部活	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
留学	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
不入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	173	94	54	46	45	30	25	12	8	7	494

最も多いのが「不入」と「進路」の47名で、次が「不入」と「知名」の38名である。「不入」と「立地」、「推薦」と「進路」は34名で同数である。

2. 自己肯定感

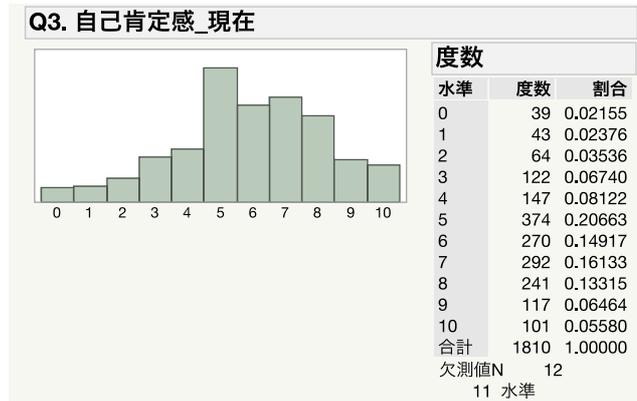
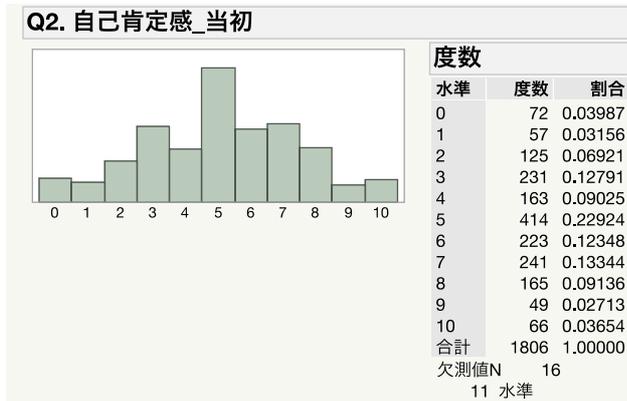
このセクションでは、Q2（入学時の自己肯定感）と、Q3（現在の自己肯定感）に関する部分について結果を報告する。

【自己肯定感】

Q2「大東文化大学の学生」としての自己肯定感は、入学時にはどの程度でしたか。0(0%肯定)～10(100%肯定)の11段階で選んでください。

Q3「大東文化大学の学生」としての自己肯定感は、現在どの程度ですか。0(0%肯定)～10(100%肯定)の11段階で選んでください。

<全学>

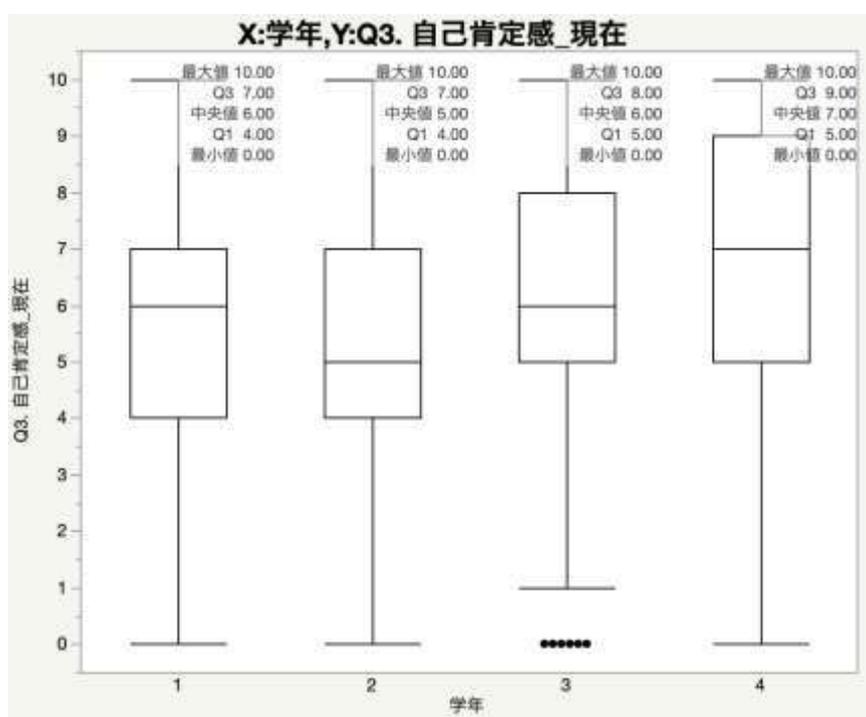


全学の分布をヒストグラムで見ると、最頻値は入学時も現在も5（50%程度の自己肯定感）であり、最低値の0から最高値の10まで広範に分布していることがわかる。平均値は、入学時が5.08、現在が5.88であり、0.80の上昇が見られた。対応のあるt検定を行ってみるとこの差は統計的に有意である。つまり全学的には入学時よりも現在のほうが自己肯定感は上昇していると言える。

<学年別>

Q3 の回答数値すなわち現在の自己肯定感を学年別に集計してみた。平均値は2年<1年<3年<4年であり、すべてのペア（2年と1年、1年と3年、3年と4年）の間に統計的な有意差がある。すなわち回答の時点で、4年生は3年生より、3年生は1年生より、1年生は2年生よりも、自己肯定感が高かった。

学年	数	平均	標準偏差	平均の標準誤差	下側95%	上側95%
1	672	5.74	2.26	0.09	5.57	5.91
2	518	5.43	2.29	0.10	5.23	5.62
3	393	6.11	2.20	0.11	5.89	6.33
4	227	6.96	2.10	0.14	6.69	7.24

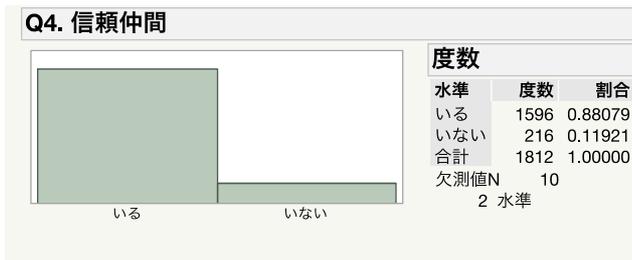


3. 他学生および教職員との関係

このセクションでは、Q4（助け合える仲間）と、Q5（信頼できる教職員）に関する部分について結果を報告する。

Q4 本学の学生の中で、交流し、助け合えるような仲間はひとりでもいますか。 ①いる ②いない

<全学>



<学年別>

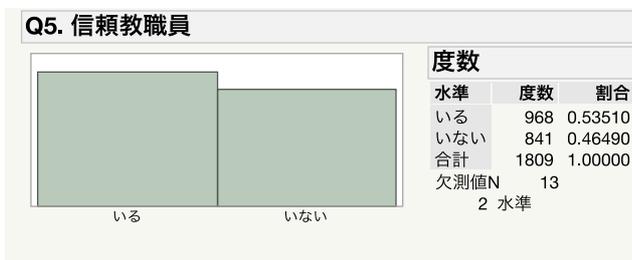
学年	いる	いない
1	87.8	12.2
2	82.6	17.4
3	92.2	7.9
4	94.3	5.7

全学では約 88%が「いる」と回答した。学年別にはやはり 4 年生の比率が高い。1 年生と 2 年生の数値の低さにはコロナ禍のためにオンライン授業が多かったことが影響している可能性もある。

Q5 本学の教職員の中で、信頼できるまたは比較的気楽に話せる教職員はひとりでもいますか。

①いる ②いない

<全学>



<学年別>

学年	いる	いない
1	44.79	55.21
2	42.83	57.17
3	66.92	33.08
4	80.26	19.74

教職員に関しては全体で約 54%が「いる」と答えた。学年別には予想通り、1～2年生と3年生、そして4年生とは顕著な差がある。

4. 施設等満足度

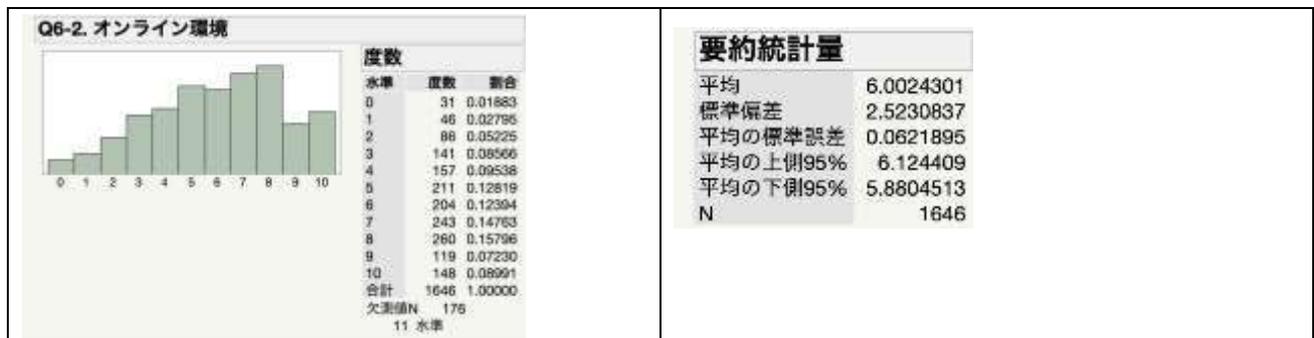
このセクションでは、Q6（施設等満足度）と Q7（施設等の改善希望）に関する部分について結果を報告する。

Q6 次のそれぞれの事項に対する満足度はどの程度ですか。0(0%満足)～10(100%満足)の 11 段階で選んでください。利用したことがない場合は、何も選択しないでください。

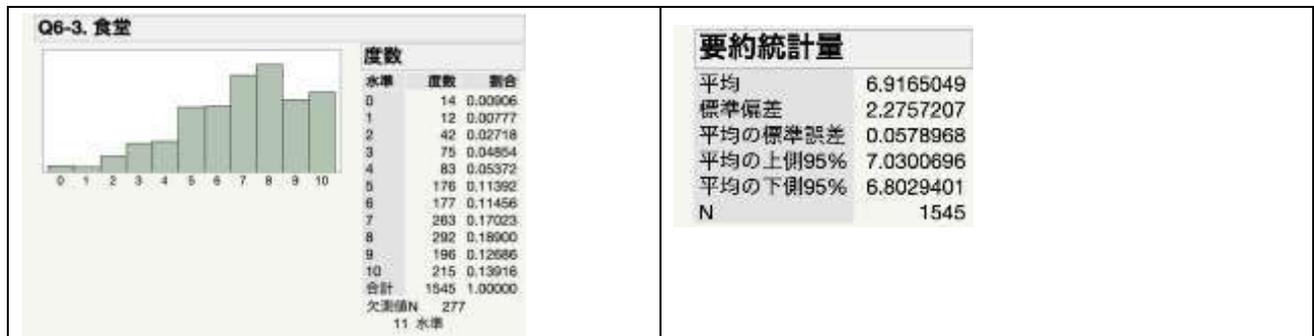
6.1 PC 教室



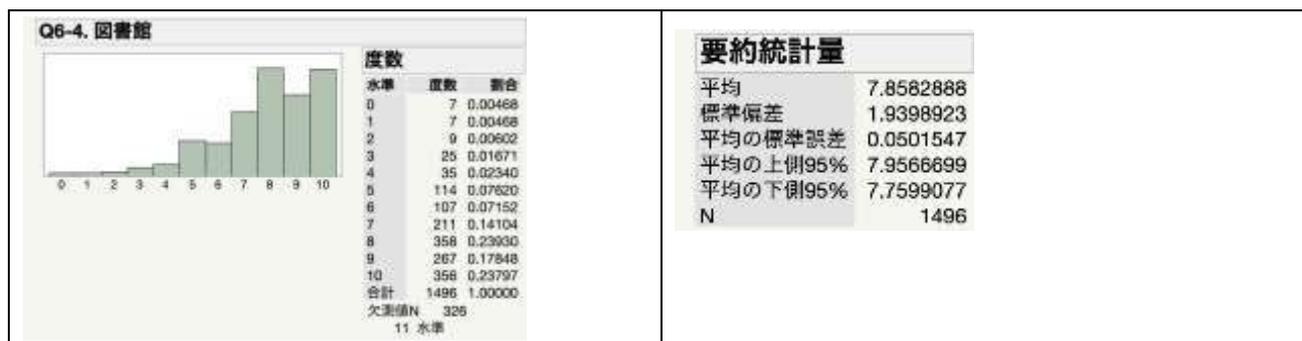
6.2 Wi-Fi などオンライン授業環境



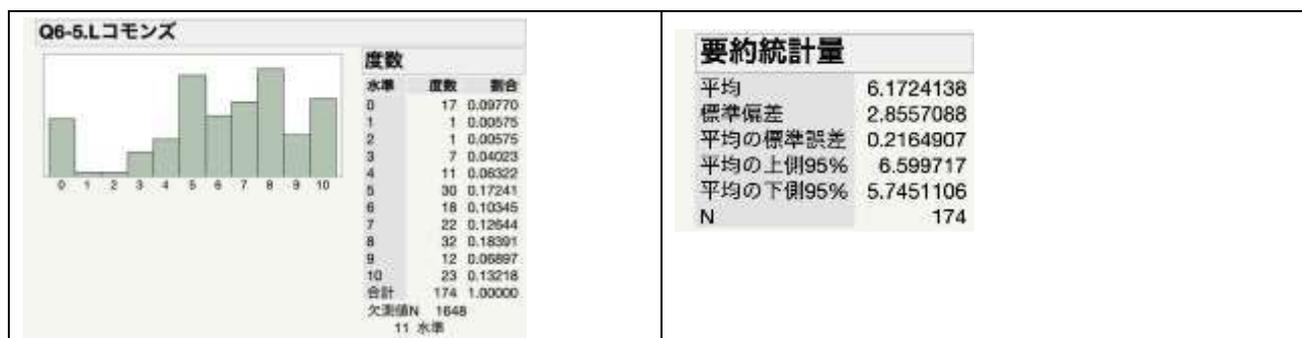
6.3 食堂



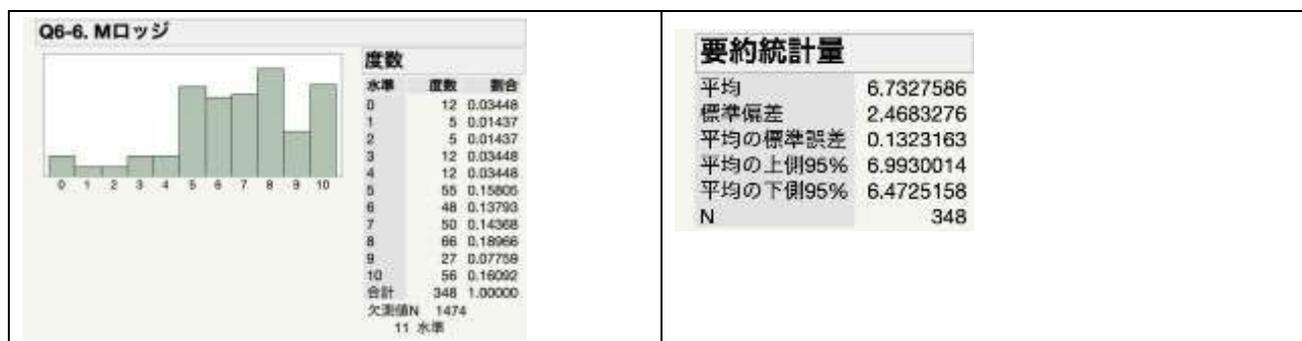
6.4 図書館



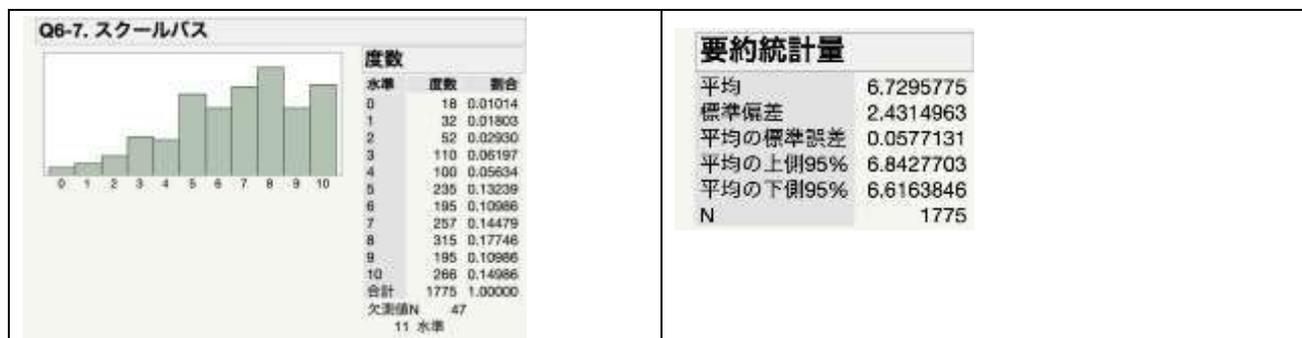
6.5 ラーニング・commons



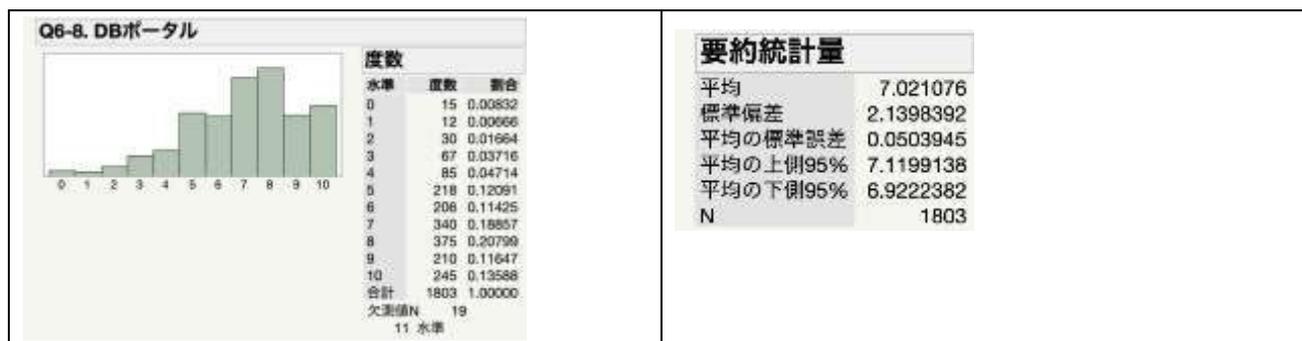
6.6 M ロッジ



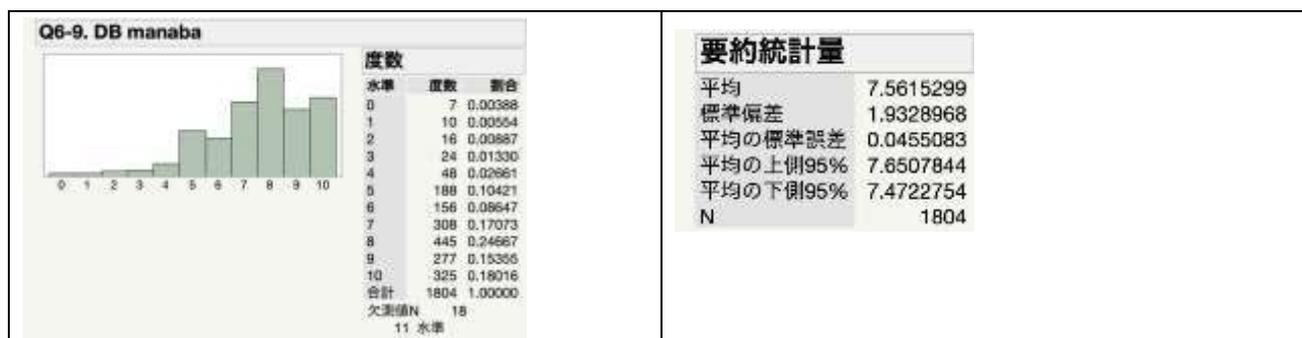
6.7 スクールバス



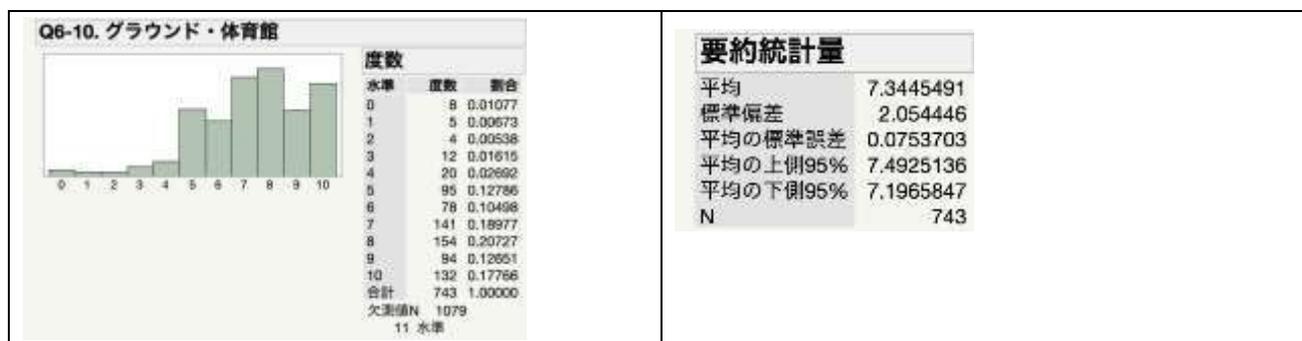
6.8 DB ポータル



6.9 DB manaba



6.10 多目的グラウンド・体育館



<平均と標準偏差の一覧>

	人数	平均	標準偏差
PC教室	1084	6.26	2.42
オンライン環境	1646	6.00	2.52
食堂	1545	6.92	2.28
図書館	1496	7.86	1.94
ラーニング・commons	174	6.17	2.86
Mロッジ	348	6.73	2.47
スクールバス	1775	6.73	2.43
DBポータル	1803	7.02	2.14
DB manaba	1804	7.56	1.93
グラウンド・体育館	743	7.34	2.05

回答人数が 1000 名以上すなわち多くの学生が利用している施設・設備に関する項目で平均値が最も高いのは図書館で、最も低いのはオンライン環境である。DB ポータルと DB manaba を比べると、manaba が高く、ポータルが低い。ラーニング・commons はそもそも回答者すなわち利用経験者が少ないのだが、標準偏差が最も高い、すなわち満足度が割れている。

5. 施設等への要望 [自由記述]

このセクションでは、Q7（施設等への要望）に対する自由記述の結果を報告する。

Q7. Q6 の内容で、特に改善して欲しいことがあれば具体的に書いてください。

この設問には 377 件の実質的なコメントがあった。その内容と件数は以下の通りである。（ひとつのコメント内で複数の内容について触れている場合はそれぞれカウントしている。）

スクールバスについて	135 件
Wi-Fi 環境について	98 件
DB-Portal について	49 件
食堂等について	47 件
manaba について	27 件
図書館について	13 件
体育施設等について	13 件
PC（教室）について	9 件
オンライン環境について	3 件
その他	20 件

<スクールバスについて(135 件)>

スクールバスについては 135 件のコメントがあり、東松山所属学生からは 95 件、板橋所属学生からは 40 件のコメントがあった。スクールバスについての圧倒的に多い意見は、(1) 時間帯によって本数が足りないのを増やして欲しい、と (2) 混みすぎていて怖いので詰め込みすぎるのをやめて欲しい、であった。また、(3) 鴻巣・久喜便について回数券ではなく定期券を導入してほしい、(4) 部活動終わりの学生に向けて最終バスの本数を見直してほしい、(5) バスの運転が荒い、等の意見も見受けられた。

<Wi-Fi 環境について(98 件)>

Wi-Fi 環境についての意見は、異口同音に、繋がりにくいエリアがあるので強化して欲しい、というものであった。具体的な場所として東松山校舎の 2、4、6、7、8 号館が挙げられた。

<DB-Portal について(49 件)>

DB-Portal については、(1) ユーザーインターフェイスが悪い、(2) エラーが頻発する、(3) 見づらい、などの声が多い。

<食堂等について(47 件)>

食堂等については、(1) (特に板橋で) メニューを増やして欲しい、(2) 内容に対して価格が高い、(3) 混雑を緩和して欲しい、という声が多かった。

<manaba について(27 件)>

manaba については、細かな使い勝手についての希望とともに、授業で使用するのを DB-Portal か manaba かどちらかに統一して欲しい、という声も複数あった。

<図書館について(13 件)>

図書館については以下のコメントがあった。

1. コロナ感染疑いで自宅待機を学校から指示された時に、図書館で借りている本の返却期限が延長されないことをどうにかしてほしい。
2. 図書館の利用時間の延長 夜遅くまでしてほしい
3. 図書館の本を新しくしてほしい
4. 図書室に参考書などを置いて欲しい
5. レポートなどを書く際に参考資料が必要なため、よく図書館を利用していた。しかし、必要な資料がどちらかの図書館にしかなく、そのたびに取り寄せるのが大変だった。板橋キャンパスの本をもう少し増やしてほしい。
6. レポートの資料として必要な参考文献がほとんど東松山キャンパスに置いてあるということがありました。遠距離通学であるため、行き来が大変です。どちらか一方にしか置いてないのは、少し困りました。
7. 学生自身が主体的に調べるべきことかもしれませんが、図書館の使い方を詳しく教えていただける機会を多く設けていただきたいです。
8. 図書館でも本以外の印刷を行いたい
9. 図書館の Wi-Fi が弱いときがある
10. 図書館の充電環境を整えてほしい
11. 図書室において、寝るために個人部屋を使っている人がいて許せないと思った。
12. 東松山図書館の個室について、頭の上に換気みたいなものがあって、夏でも結構寒い気がする、また冬になると、図書館全館がとても寒い！！特に個室！
13. 板橋校舎の図書館は快適。東松山校舎の図書館は夏はいいけど冬は寒すぎて勉強がはかどらない。利用したいとは思えない。1. 2 年生のために暖房設定温度を上げてあげてほしい。

<体育施設等について(13 件)>

体育施設等についても、以下に全件を掲載する。

1. トレーニングジムなどを一般学生でも使えるようにしてほしい
2. トレーニングセンターを誰でも使えるようにしてほしい
3. トレーニング室を使わせて欲しいです。
4. 部活動に所属していない学生にもジム、シャワールーム等の設備が使えるようにしてほしい。
5. 利用しやすい環境を作ってほしい。例えばトレーニングルームなどは運動部が占領していることもあり使用ができないこと
6. 人工芝の質

7. 早く更衣室を使えるようにしてほしい
8. シャワールーム
9. 総合グラウンドのネット
10. 総合グラウンド人工芝の整備をしてほしいです。毎年怪我する人がとても多いため。
11. 体育のときの更衣室が遠すぎる。
12. 体育館の建物内の地図が分かりやすい場所に欲しい
13. 野球グラウンドの整備をして頂きたいです。

<PC(教室)について(9件)>

PC関係では以下のコメントがあった。

1. pcの充電用にコンセントを増やしてほしい
2. PCルームに置いてあるPCのOSが古い。
3. pc教室のマウス、特にマウスホイールの反応が悪い物があるので直していただきたいです。
4. pc教室は席が狭くて使いづらい
5. PC室やスクールバスはもう少しコロナ対策をした方が良いと思う。
6. ゼミで本来ならば利用できるはずのPC教室が、全く利用できなかったのが辛かったです。
7. ノートPCが古い気がします。
8. パソコンのバージョンを上げてほしいです。パソコン室を使用するのは基本の操作とOffice利用が主な目的だと思うのですが、それ以外にもペイントや動画編集などを習うためにも使われるので、あまりにもバージョンが古いと使用できないアプリがありました。新しいパソコン、もしくは自分達のパソコンを学校の機器と繋げるものが欲しいです。
9. パソコン室の設備の刷新

<オンライン環境について(3件)>

オンライン環境については以下のコメントがあった。

1. オンライン授業でも発言をするので周りを気にせず受ける場所が欲しい
2. オンライン授業や就活の企業説明会などで、こちらから話しても迷惑にならないような空間を用意してほしい。
3. オンライン授業環境

<その他(20件)>

その他に、空調の一括管理をやめて欲しい、ラーニング・コモンズを使えるようにしてほしい、カラーコピーができるようにしてほしい、などの様々な声があった。

以上の声については学生の要望の実現可能性について、それぞれの関係部局に対し検討を依頼してゆきたい。

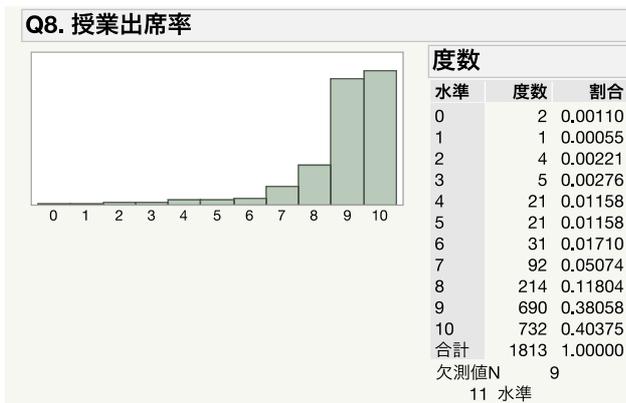
6. 学修状況

このセクションでは、Q8（授業の出席状況）と、Q9（出席状況が悪い理由）、Q10（平均的な学修時間）に関する部分について結果を報告する。

【日常の学修状況】

Q8 授業への平均的な出席状況はどの程度ですか。0(0%出席)～10(100%出席)の11段階で選んでください。

<全学>



全学の回答分布は左のようである。最頻値は10であり、9と10で約78%を占めている。

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	670	8.93	1.42
2	519	9.13	1.13
3	396	8.94	1.37
4	228	8.88	1.11
全体	1813	8.98	1.30

学年では2年生の9.13が最も高い。

Q9 Q8で0～4を選んだ方は、その理由を教えてください。(主なものを2つまで)

- ①アルバイトに時間を費やしていた [バイト]
- ②課外活動（部活・サークル活動等）に時間を費やしていた [課外]
- ③授業がつまらなかった・やる気にならなかった [退屈]
- ④パソコン・インターネット環境が整わなかった [ICT]
- ⑤課題が多く、すべての授業に対応できなかった [課題]
- ⑥休学・退学を考えている [休退]
- ⑦精神的な悩み [精神]
- ⑧健康上の理由 [健康]

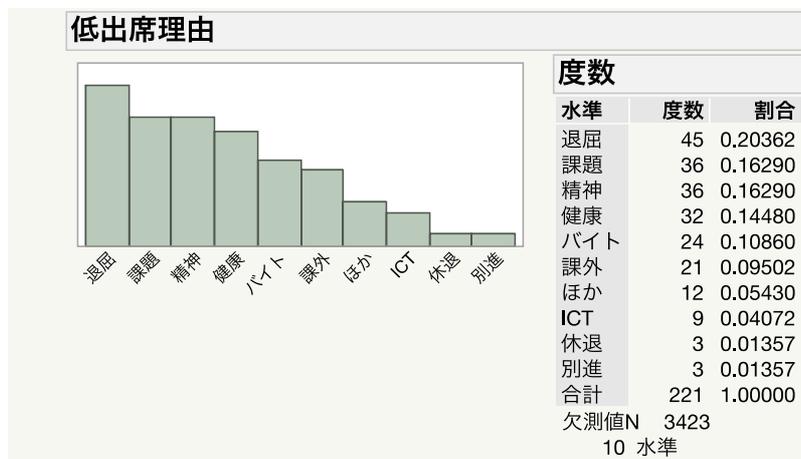
⑨別の進路を考えている

[別進]

⑩その他

[ほか]

<全学>



最も頻度が高いのは「退屈」(授業がつまらなかった・やる気にならなかった)で、次に「課題」(課題が多く、すべての授業に対応できなかった)と「精神」(精神的な悩み)が続いている。上の表で「割合」とあるのは、すべての理由を1.00としたときの割合であるが、この項目に回答した人数は147なので、回答した人数に対する割合は、以下のようになる。回答者の約31%が「退屈」をあげ、約25%が「課題」「精神」をあげていたことがわかる。

退屈	課題	精神	健康	バイト	課外	ほか	ICT	休退	別進
45	36	36	32	24	21	12	9	3	3
30.6%	24.5%	24.5%	21.8%	16.3%	14.3%	8.2%	6.1%	2.0%	2.0%

次に学年と理由のクロス集計を、度数と学年内パーセンテージで表示した。

<学年別> (度数)

学年 By 低出席理由											
学年	退屈	課題	精神	健康	バイト	課外	ほか	ICT	休退	別進	合計
1	17	18	18	16	6	9	4	3	2	3	96
2	8	8	5	4	4	4	4	4	1	1	39
3	12	8	12	9	9	4	4	2	0	0	60
4	8	2	1	3	5	4	0	3	0	0	26
合計	45	36	36	32	24	21	12	9	3	3	221

<学年別> (学年内パーセンテージ)

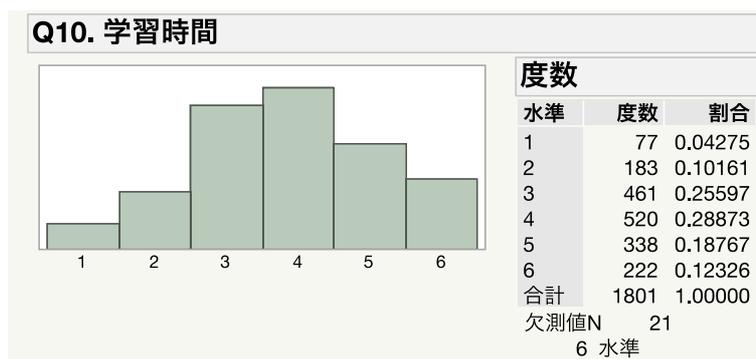
学年	退屈	課題	精神	健康	バイト	課外	ほか	ICT	休退	別進	合計
1	17.7	18.8	18.8	16.7	6.3	9.4	4.2	3.1	2.1	3.1	
2	20.5	20.5	12.8	10.3	10.3	10.3	10.3	2.6	2.6	0.0	
3	20.0	13.3	20.0	15.0	15.0	6.7	6.7	3.3	0.0	0.0	
4	30.8	7.7	3.9	11.5	19.2	15.4	0.0	11.5	0.0	0.0	

まず度数に関しては、1年生が96と突出して高いのが気になる。また「別進」(別の進路を考えている)に度数があるのは1年生のみであった。「休退」(休学・退学を考えている)は1、2年生のみで3年生になるといない。学年内パーセンテージに関しては4年生になると「退屈」が突出していること、バイトのパーセンテージが1年<2年<3年<4年と上昇していることが観察できる。

Q10 授業のための予習・復習・課題、資格取得のための準備等を合わせて、一日平均どのくらい学習しますか。

- ① 4時間以上 ② 3時間程度 ③ 2時間程度 ④ 1時間程度 ⑤ 1時間未満 ⑥ ほぼしない

<全学>



最頻値は4(1時間程度)で、約29%を占める。大学生の学修時間としてはいささか少ないのではないだろうか。6(ほぼしない)も12%以上ある。次に学年別の分布を示す。

<学年別>

学年	1	2	3	4	5	6
1	2.9	8.1	26.8	30.9	18.6	12.7
2	5.4	14.3	29.6	26.1	16.4	8.1
3	5.3	10.7	22.4	27.5	19.3	14.8
4	4.0	5.8	18.3	31.7	23.7	16.5

学年別には1(4時間以上)の割合が最も高いのは2年生で、1(4時間以上)と2(3時間以上)を合計した割合が最も高いのも2年生である。1と2の合計(すなわち3時間以上学修している)、1と2と3の合計(すなわち2時間以上学修している)による学年の順序は共通で、4年<1年<3年<2年である。すなわち4年生の学修時間が最も短く、2年生の学修時間が最も長い。

7. 授業満足度

このセクションでは、Q11（授業満足度）、Q12（満足度が高い理由）、Q13（満足度が低い理由）に関する部分について結果を報告する。

【これまでの授業への満足度】

Q11 本学でこれまで履修してきた授業に対する全体的な満足度はどの程度ですか。0(0%満足)～10(100%満足)の11段階で選択してください。

<全学>



全学での最頻値は6（=60%の満足）、平均値は6.4（=64%の満足）である。ヒストグラムで分布をみると6～8がそれほど差のないボリュームゾーンであるが、分布の「裾野」がグラフの左方すなわち満足度の低い側にも薄く広がっており、割合は少ないものの0や1も存在している。

<学年別>

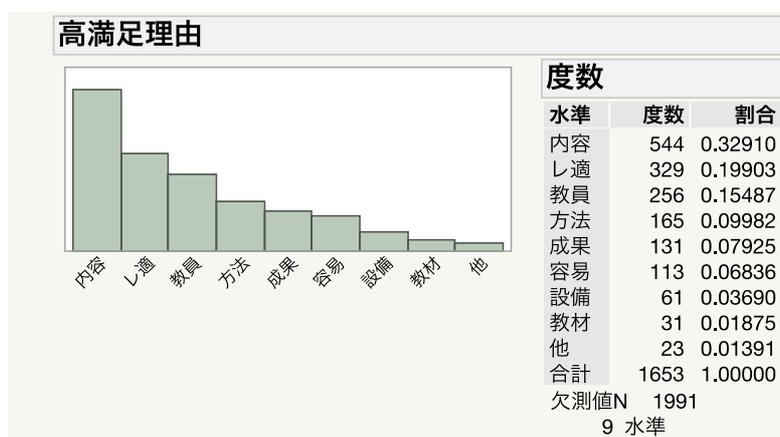
学年	数	平均	標準偏差
1	669	6.44	1.89
2	519	6.05	2.01
3	394	6.57	1.85
4	225	7.00	1.53

学年別には、1年生の数値が2年生になると下降し、3年生で再び上昇し、4年生で最も高くなるという傾向が見える。2年生は標準偏差も2.0を超えている。これは全学FD委員会による「学生による授業認識アンケート」で観察されたパターンと類似のものであるため、おそらく本学における一般的な傾向と考えて良いと思われる。

Q12 Q11 で7～10を選んだ方は、満足度が(比較的)高い理由を教えてください。(主なものを2つまで)

- ①授業内容がよい [内容]
- ②授業方法がよい [方法]
- ③担当教員が魅力的である [教員]
- ④単位の修得が容易である [容易]
- ⑤授業レベルが自分に合っている [レ適]
- ⑥教材がよい [教材]
- ⑦施設/設備がよい [設備]
- ⑧授業の成果が実感できる [成果]
- ⑨その他 [他]

<全学>



当然とも言えるだろうが「内容」(授業内容がよい)が圧倒的に多い。次に「レ適」(授業レベルが自分に合っている)、「教員」(担当教員が魅力的である)と続く。

<学年別>

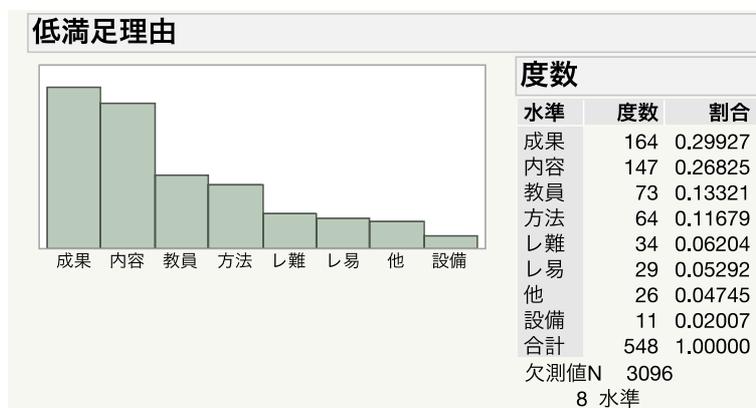
学年	内容	レ適	教員	方法	成果	容易	設備	教材	他
1	31.2	22.9	14.3	9.9	8.9	6.5	3.8	1.9	0.7
2	32.8	19.6	15.3	10.4	8.3	7.6	2.8	0.9	2.4
3	34.7	13.9	17.6	10.5	7.9	6.8	3.9	2.9	1.8
4	34.4	22.5	15.3	8.8	5.3	6.5	4.6	1.9	0.8

学年別には3年生で「レ適」がやや小さいが、特段の違いは認められないようだ。

Q13 Q11で0~4を選んだ方は、満足度が(比較的)低い理由を教えてください。(主なものを2つまで)

- ①授業内容に魅力がない [内容]
- ②授業方法になじめない [方法]
- ③担当教員と相性が悪い [教員]
- ④授業レベルが難しすぎる [レ難]
- ⑤授業レベルが簡単すぎる [レ易]
- ⑥施設/設備が貧弱である [設備]
- ⑦授業の成果が実感できない [成果]
- ⑧その他 [他]

<全学>



満足度が低い場合にもっとも多い理由は「成果」(授業の成果が実感できない)である。満足度が高い場合に最も多かった理由の「内容」も、満足度が低い場合にも2つ目に多い理由になっている。

<学年別>

学年	成果	内容	教員	方法	レ難	レ易	他	設備
1	24.6	28.6	14.6	14.6	8.2	4.1	3.2	2.3
2	37.6	25.8	12.4	8.3	5.2	4.1	5.2	1.6
3	31.7	27.7	10.9	11.9	5.0	5.9	5.9	1.0
4	15.2	18.2	18.2	12.1	3.0	18.2	9.1	6.1

学年別に見ると1年生は「内容」、2年生と3年生は「成果」が最も割合が高い。4年生は他の3学年とパターンが異なっているように見えるが、これが一般的な傾向なのか、今回回答のあった学生のみの特徴であったのかは判断がつかねる。

8. 建学の精神の理解と DP 達成度

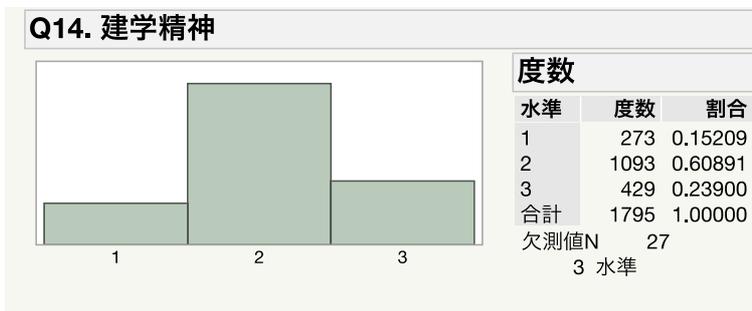
このセクションでは、Q14（建学の精神）と、Q15～Q21（DP 達成度）に関する部分について結果を報告する。

【建学の精神】

Q14 本学の建学の精神、教育理念を現時点でどの程度知っていますか。（※URL を提示）

①知っており内容も理解している ②あることは知っているが内容はよくわからない ③知らない

<全学>



<学年別>

学年	1	2	3
1年	14.3	62.4	23.2
2年	16.7	60.2	23.1
3年	14.1	64.6	21.3
4年	16.3	51.5	32.2

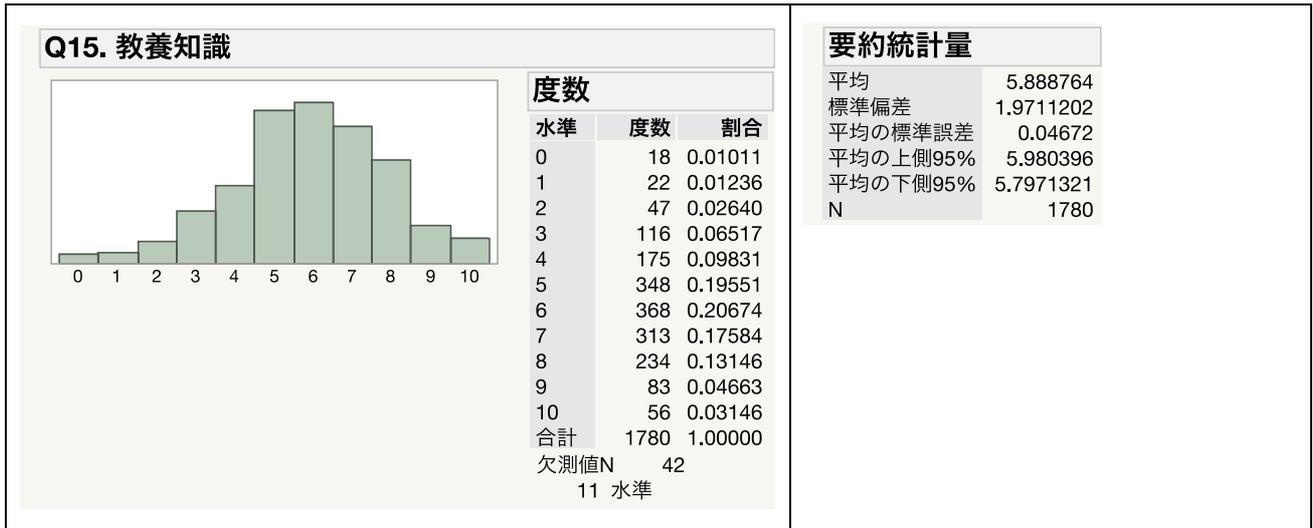
全学では、1（知っていて理解している）は 15.2%で、3（知らない）と回答した学生が 23.9%いる。学年が進行するにつれ建学の精神の理解が深まるということはまったくない。「知らない」と回答したのは 4 年生の割合が最も高かった。

【DP 達成度】

以下の設問は、本学の「卒業認定・学位授与方針」に関連した問いです。本学では以下のような力を身につけた学生に卒業を認定すると定めています。現時点での自分の認識として、それぞれの力がどの程度身についていると思いますか。0(まったく身につけていない)～10(100%身につけている)の 11 段階で選んでください。

Q15 「豊かな教養・幅広い知識を修得している」

<全学>

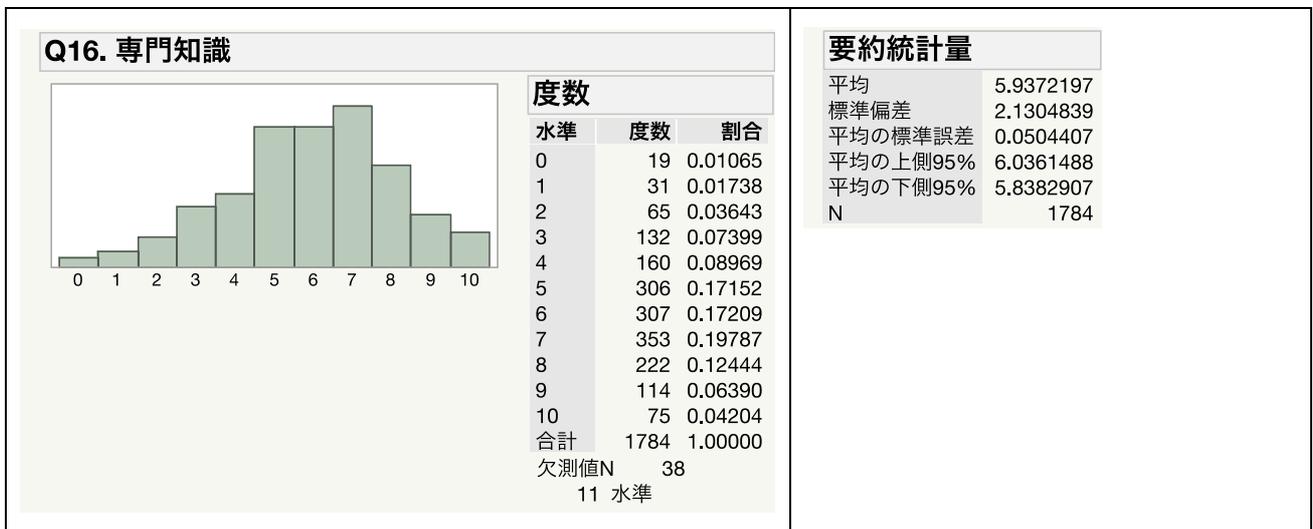


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	657	5.40	1.91
2	512	5.60	1.91
3	387	6.36	1.93
4	224	7.17	1.58

Q16 「学部学科の専門知識・技能を修得し、活用することができる」

<全学>

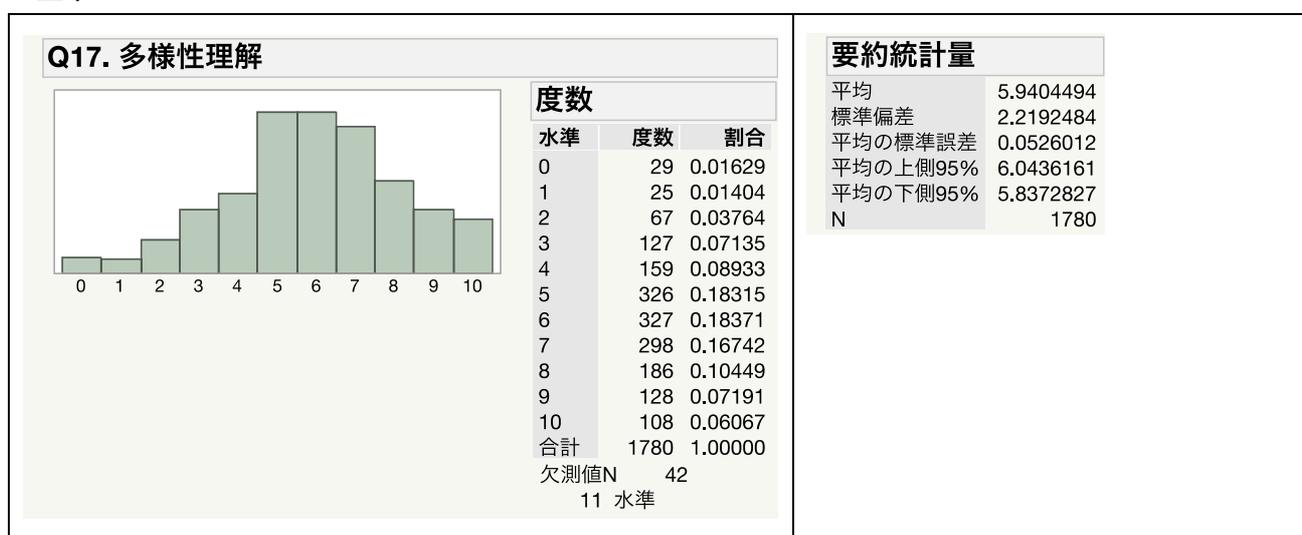


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	658	5.56	2.12
2	514	5.67	2.06
3	387	6.38	2.05
4	225	6.91	2.02

Q17「多様性を理解する力(多文化社会に貢献できる国際的な視野と感覚、異文化への共感的想像力やコミュニケーション能力)を身につけている」

<全学>

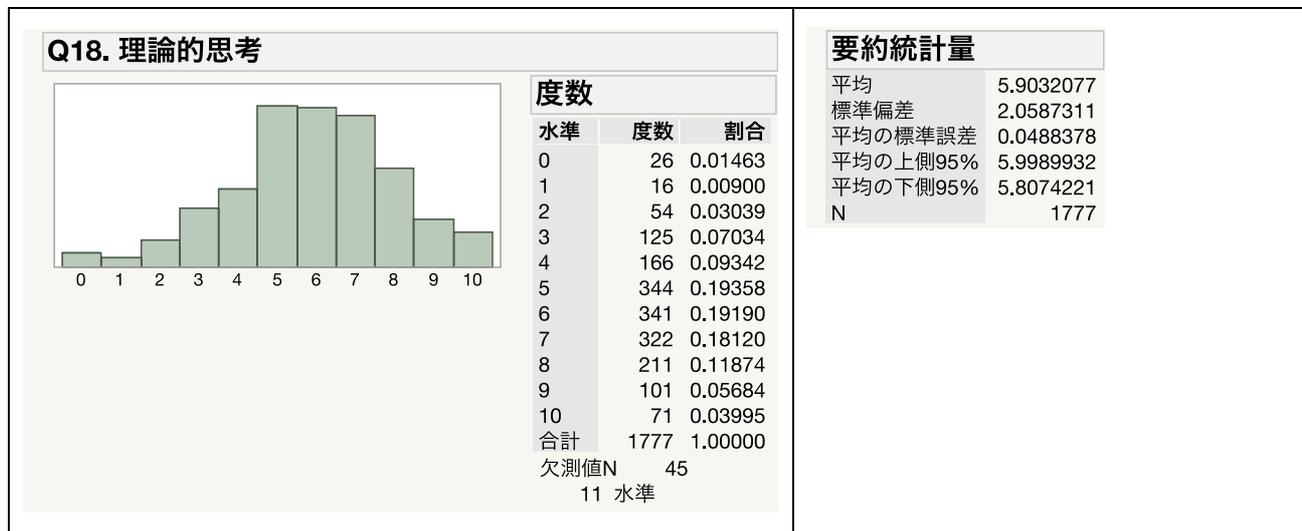


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	658	5.56	2.12
2	512	5.64	2.21
3	387	6.38	2.20
4	223	7.00	2.11

Q18「理論的に思考し判断する力(国内外における諸課題を発見し、解決策を構想するための思考力や判断力)を身につけている」

<全学>

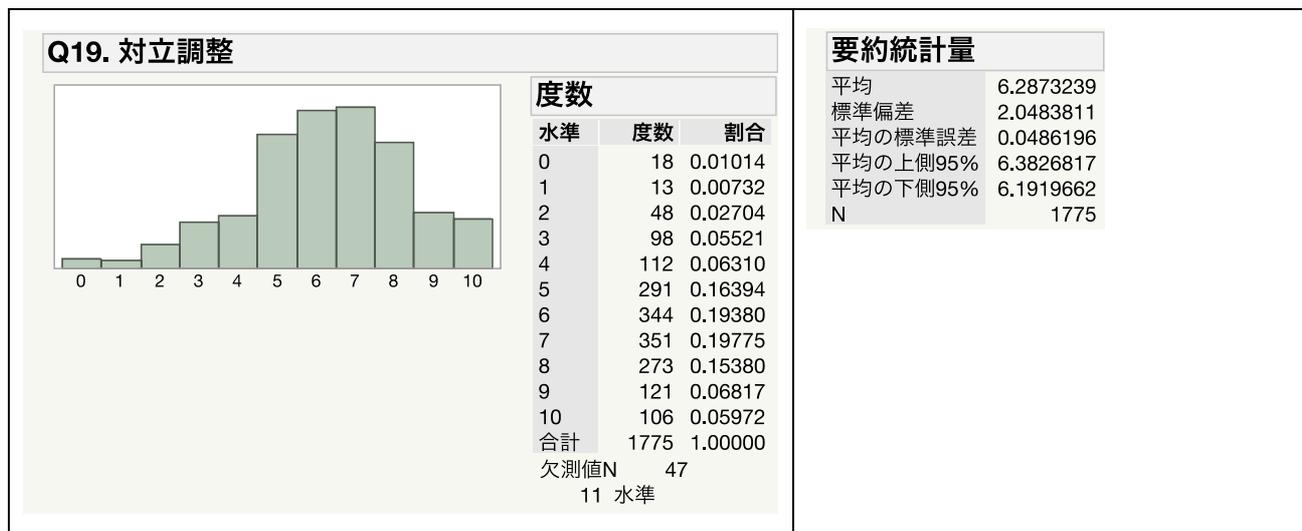


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	656	5.57	1.94
2	511	5.62	2.11
3	387	6.25	2.03
4	223	6.93	1.89

Q19「対立する価値を調整し、他者と協働する力(自己の意見を適切に表現・伝達できるとともに、背景や価値観の異なる他者の意見に傾聴し、議論や協働により問題解決を行う力)を身につけている」

<全学>

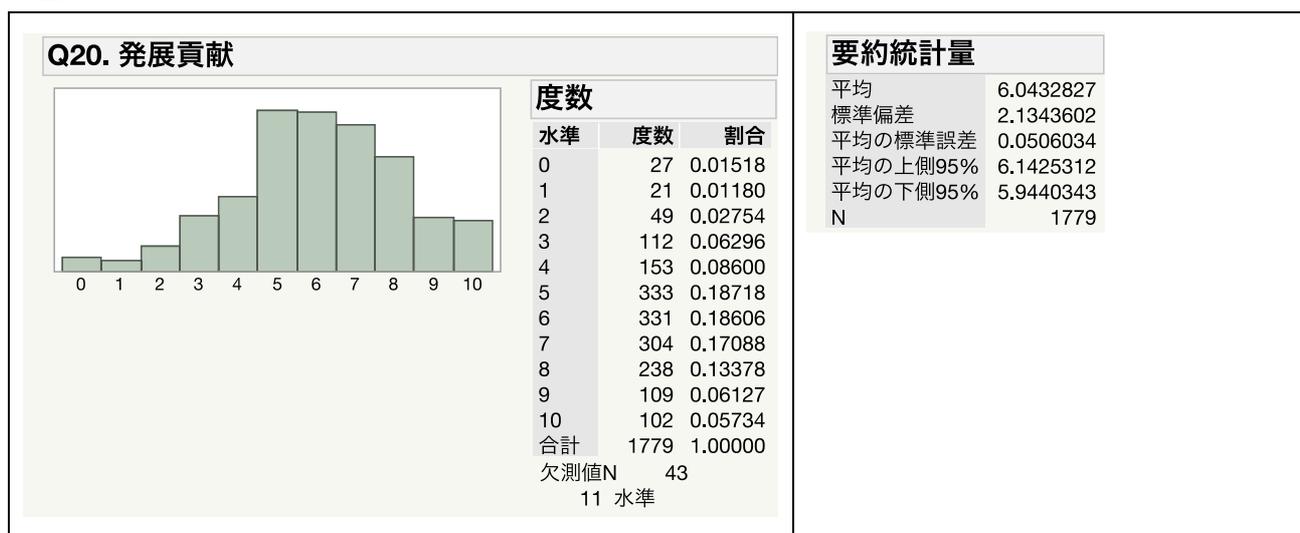


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	654	5.88	1.96
2	515	5.93	2.11
3	384	6.78	1.97
4	222	7.46	1.62

Q20 「生涯にわたって学び続け、国際社会や地域社会の発展に貢献する意欲と能力を身につけている」

<全学>

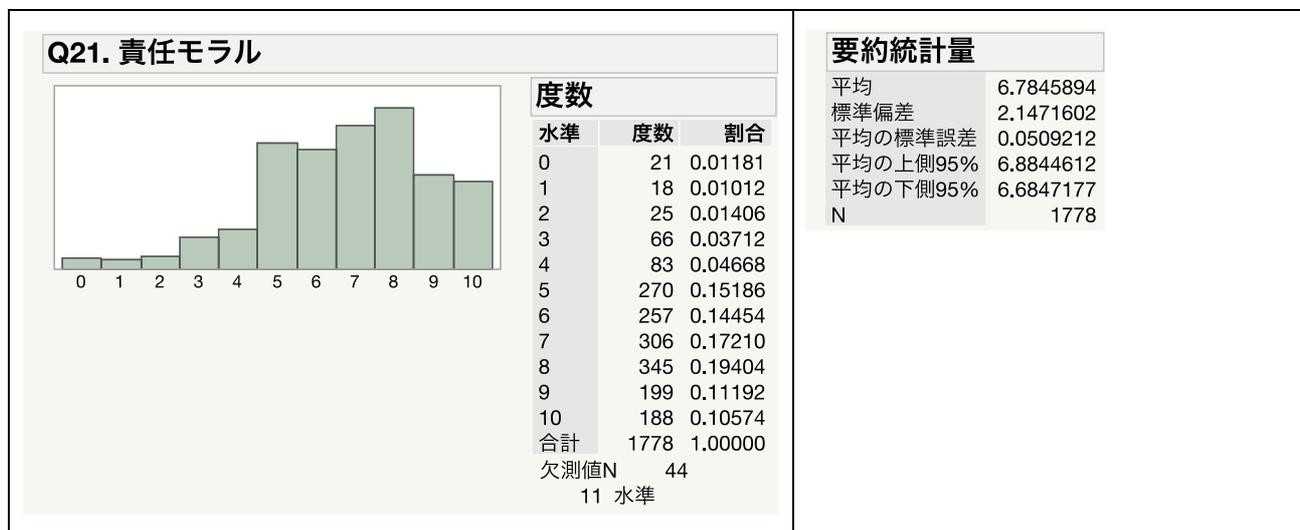


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	656	5.65	2.04
2	515	5.75	2.16
3	386	6.46	2.08
4	222	7.15	1.91

Q21 「社会の一員としての強い責任感、使命感、モラルをもち適切に行動できる力を身につけている」

<全学>

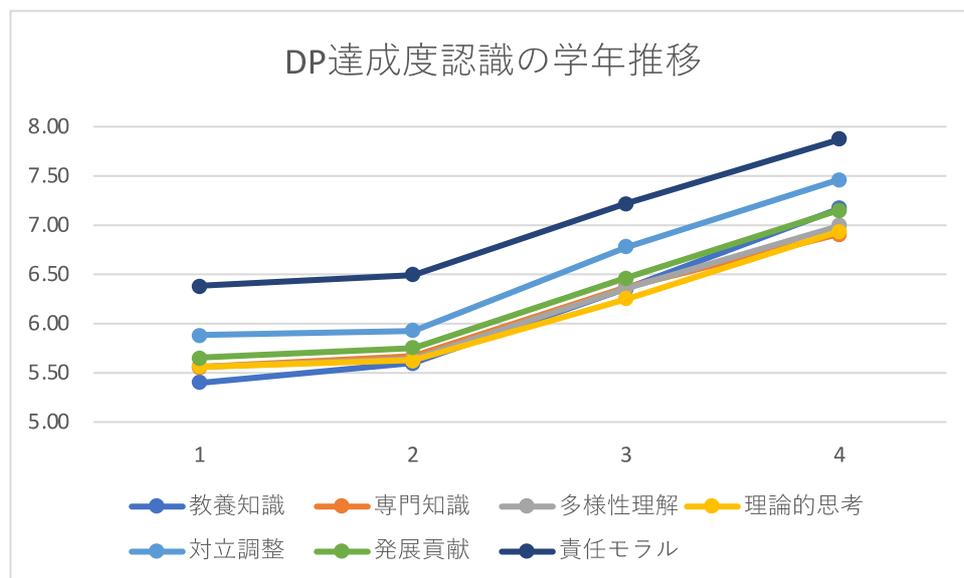


<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	652	6.38	2.11
2	515	6.50	2.17
3	387	7.22	2.08
4	224	7.88	1.76

以上の DP 達成度の学年推移を一つの表、グラフにまとめて表示すると以下のようになる。

学年	教養知識	専門知識	多様性理解	理論的思考	対立調整	発展貢献	責任モラル
1	5.40	5.56	5.56	5.57	5.88	5.65	6.38
2	5.60	5.67	5.64	5.62	5.93	5.75	6.50
3	6.36	6.38	6.36	6.25	6.78	6.46	7.22
4	7.17	6.91	7.00	6.93	7.46	7.15	7.88



DP 別の自己認識による達成度はいずれの項目でも 1 年 < 2 年 < 3 年 < 4 年、と数値が上がっていくことが確認できた。項目間では、「責任モラル」の数値が最も高く、4 年時には 7.88 に達している。一方、数値が上がりにくいのは「専門知識」と「理論的思考」である。いずれも授業によって直接働きかけることのできるはずの分野であるため、より一層の授業充実の必要性が示唆される。